手作り紙芝居

「詩と共に」

1枚目／池田先生の詩　（5枚目の絵の裏に貼る）

1971年、池田先生は世界中のすべてのお母さんへの感謝を込めて長編詩「母」を詠みました。

「母よ！／おお母よ／あなたは／あなたは　なんと不思議な力を／なんと豊富な力を　もっているのか／母よ！／おお母よ／あなたは／あなたは　なんと強き調和の存在か／なんと　いいようのない会話の名人か」（長編詩「母」）

池田先生の「母」の詩は世界詩歌協会の月刊誌『ポエット』の表紙を飾り、人々に大きな感動を与えました。インドの教育者 セトゥ・クマナン 博士も先生の「母」の詩を読み感銘を受けた一人です。博士は、詩をきっかけに池田先生の生き方、教育に対する取り組みを学び、池田先生こそ「わが師匠」と決めたのです。博士は自らインドで「創価池田女子大学」を創立。先生の詩は多くの人に感動を与え、生きる指針になっているのです。

2枚目／「励まし」から生まれる詩　（1枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は、語らいを交わしたその席で、便りを目にしたその場所で、報告を聞いたその車中で、わずかな合間を縫っては同志のことを思い詩歌を詠んできました。その詩作は６００編、１４万行を超えています。

ある時「なぜ、これほど多くの詩を詠むことができるのですか？」と尋ねられ、先生は「特別なことは何もありません。その人を何とか励ましてあげたい。前向きに力強く生きてほしい、という思いです。その思いで贈り続けてきた結果です」と答えられました。

池田先生は、広布の最前線で戦う同志の方々を讃えて、次のように語られています。「この方々を讃えずして、誰を讃えるのか？　この方々の人生を歌わずして、何を歌うのか」と。

池田先生の詩は、人々を励まさずにはおかないとの溢れる思いから生まれているのです。

3枚目／「詩」のもつ力　**（2枚目の絵の裏に貼る）**

池田先生の詩に対し、世界中から多くの称賛がおくられています。

アジアの高名な詩人の　パッリヤグル博士は、70代を超えて詩を書き続ける人は稀であると語られ、「現代の詩人は、読者に悲観を与えるようなことばかりを書いています。そのなかで池田博士は、勇気と希望を与える詩を書き続けておられます」と讃えています。

池田先生は「詩」のもつ力について次のように語っています。「詩は、人間の精神を限りなく広げる。豊かにする。音楽のように、国境を超え、距離を超えて、人間の心を結ぶ。……だからこそ私は、詩を大事にします」と。

池田先生は今でも、励ましの詩を作りつづけられているのです。

4枚目／「桂冠詩人・世界桂冠詩人・世界民衆詩人」　**（3枚目の絵の裏に貼る）**

池田先生は「桂冠詩人」「世界桂冠詩人」「世界民衆詩人」の3つの称号を授与された、世界でただ一人の詩人です。世界の文学史上、アメリカのホイットマン、ロシアのプーシキン、ドイツのハイネなど、「民衆詩人」と呼ばれ、民衆に愛された詩人がいます。「世界民衆詩人」の称号は、その「民衆詩人」の名に「世界」を冠したものです。

この称号を 2007 年に池田先生に対して授与した折、世界詩歌協会の スリニバス 会長は「今日の世界は破滅へと直進しています。池田会長のような偉大な詩人だけがそれを救うことができるのです」と語りました。

5枚目／“正義の言葉”、“励ましの声”を　**（4枚目の絵の裏に貼る）**

池田先生は、次のように語っています。「現実の社会には、人を陥れ、命を傷つける邪悪の言葉が渦巻いている。言葉が乱れるとき、人間が乱れ、時代が乱れる。だからこそ私たちは、何ものにも屈せぬ、正義の言葉を、真実の言葉を、21世紀の文化の世界に一段と力強く響かせてまいりたい」と述べられました。また、「皆を励まし、鼓舞しようとするとき、無限の言葉が溢れ出てくる。目に見えるもの、命にふれるものが、みな、そのまま詩となっていく」とも語られています。

池田先生の詩は、ほとばしる正義の心、励ましの心から生まれているのです。私たちもなにものにも屈せぬ“正義の言葉”を、友への“励ましの声”を力強く響かせていきましょう。

決意など